



県立近代美術館で講演会 恩地孝四郎の実験精神 近代芸術へ橋渡し役に

近代日本における版画家の巨星、恩地孝四郎(1891~1955)の作品展を開催中の和歌山市の県立近代美術館で、桑原規子・聖徳大学教授が「恩地孝四郎の実験精神 創作版画から現代美術へ」をテーマに講演、会場を訪れたファンらが耳を傾けた。

講演会で桑原教授は、海外では戦前から、油絵などの作品よりも、先に恩地らの版画作品が高く評価されていたことを紹介。また、恩地が果たした役割について「強靱な創造精神を持って、日本で抽象画を描き続けたことで、次世代の芸術家を近代芸術の世界へつなぐ橋渡し役となった」と評した。

橋本市出身の父のもとで生まれた恩地は、日本における「抽象表現のパイオニア」として知られている。今回の作品展では、詩と版画の雑誌「月映」で発表された「抒情あかるい時」など、計約400点を展示している。

6月12日まで(月曜休館)。5月22日と6月5日のいずれも午後2時から、学芸員解説がある。同館の奥村一郎学芸員は「国内外の貴重な恩地作品が集まっている。ぜひ多くの人に足を運んでもらいたい」と話している。

県立伊都高校(橋本市)で福祉を学ぶ生徒8人が、地元の高野町を訪問した「バリアフリーマップ」作りの一環として、バリアフリー化が進む県立きのかわ支援学校を訪問した。作製したマップは地元で配布する方針。

伊都高生 きのかわ支援学校訪問 手すりや多目的トイレなど確認

整備されているなどバリアフリー化が進む状況を見学した。

木材で覆って安全性を考慮したコンクリート柱や、音に敏感な児童・生徒のため、金田真奈さんは「いろいろなところを整備する必要を知りました。マップ作りに生かしたい」。指導する杉谷千春教諭も「これをきっかけに地域とのつながりを持つことができるようになればうれしい」と話していた。



めテニスボールを付けて響かせないようにした椅子のほか、高さ調整できる机のある調理室、広い多目的トイレなどを確認した。

金田真奈さんは「いろいろなところを整備する必要を知りました。マップ作りに生かしたい」。指導する杉谷千春教諭も「これをきっかけに地域とのつながりを持つことができるようになればうれしい」と話していた。

和歌山短歌

花尻 万博 選

手の受話器体温ほどになりぬけば元気で居てと姉妹の絆 由良 奥野美知子
春雨の細き光は音もなく花の宴を静め降るなり 同

【評】「存知の方も多いたろうが和歌山県には和歌山をPRするご当地アイドルFunnxFam(ファンファン)というグループがいる。姉妹で活動する子も多いのだが、先日あるメンバーの妹の卒業発表があり、その当の本人よりも姉の方が多く涙を流していたのを見て甚く感極まった。男の兄弟とはまた違った、姉妹にはある種習性としての出来ない清浄な絆があるのだと感じた。前歌、姉妹の愛を感じる。受話器が温まるほどの思いは詩でしかない。後歌、春雨の雫が花の宴の肉感に對比され読む者をも包む。二首とも頂上事にした。良いお歌、大切にされた。

窓際にいつしか置かる錨草(あぐさ)は此処にも夫のぬくもり 申 津田ちあき

【評】錨草はメギ科イカリソウ属の落葉多年草、今でも錨草の花を見つけた時は童心に戻った様子が感じられる。夫のさり気ない仕草を愛の具象と解する事は難しくはあるまい。胸の内を口に出さないのも男

の美学か。錨草の花言葉は「君を離さない」。病み臥せる妻のおよびのほの白く赤きいちごをまきぐりつ食ふ 橋本 若林 猛
澄み渡る弥生の空に白き富士箱根の関所跡より仰ぐ 和歌山 西川登美子

【評】前歌、白と赤の感情の往来、病みといちごの生死の把握、これ以上の評を併せても陳腐にならう。この作者あつてのこの歌。薄闇に光る作者の生活が献身という余光を以て輝く。後歌、弥生の清々しさ、富士の雄々しさ。太古の風景さえ蘇るかの様。欲張りでない表現が一首を澄ませる。

雨戸縋る音の聞こえず隣人の高齢故に安否気遣ふ 有田川 今井 善衛
九十年住みし古里出でし友に紀州みかんの絵手紙送る 古座川 巽 恵美子
春の野に握り拳のわらび摘む里はのどかに山羊の鳴く声 和歌山 定松 宏枝
風戦ぎ花びら浴びた我が娘愛しきことを桜とて知る 橋本 畑中勢依子
ターンする事はできない来し方をなつかしむつつ余生たのしむ 那智勝浦 立瀧 純子
はらはらと散りゆく桜これもまた風情があつてしはららと眺む 和歌山 古垣内八重子
溜息のつい口をつく老農夫蚊帳の外なるTPP協議 紀の川 岡野貴穂子
動くのは我と目高と時計だけ静かに今日も力一テンを引く 和歌山 西 良子

子育てはいつ終わつたのと思ふ時計の音が響く夜更けに 有田川 堀内 賀代
ぼうたんの香り気高くその姿華麗を極め丹精の日々 和歌山 溝口 圭子
病室の窓から見ゆる紀三井寺の開花ニュースで知りし かつらぎ 山本 好幸
ジャズミンの小枝を生けし食卓にはなやぐ心一人占めなり 湯 浅 森澤 春秋
花の散る水面に泳ぐ鯉の顔鼻や背中に春をまとい 有田 谷中伊都子
桜見のシーズン観光バスがゆく畑打つわれも旅に出でたし 印南 畑野 俊一
何時までも續く地震の恐ろしさ被災地の人の元気を祈る 和歌山 前村 瑞恵
なごり雪か細き父の声消され梅が咲く頃涙あふる 有田川 森本さち子
新学期孫中学に入学し制服姿に祖父目を細め 橋本 大倉 和代
図書館の坊主頭の少年の白きワイシャツこぶる故し 美 浜 海野 雄吉
草原を駆ける二頭の鹿のように生きやう身軽に口笛吹きて 湯 浅 兵野 勉

投稿は、官製はがきで〒640-8154 和歌山市六番丁43、産経新聞和歌山支局「短歌」係へ(住所、氏名、年齢、電話番号)。選者は花尻万博、石井和子の両氏。特に選者を希望される方は選者名を書いてください(はがき一枚につき3首まで)。石井氏の締め切りは5月24日(必着)、花尻氏の締め切りは7月5日(必着)です。作品は未投稿のものに限ります。二重投稿は遠慮ください。

お知らせ
投稿は、官製はがきで〒640-8154 和歌山市六番丁43、産経新聞和歌山支局「短歌」係へ(住所、氏名、年齢、電話番号)。選者は花尻万博、石井和子の両氏。特に選者を希望される方は選者名を書いてください(はがき一枚につき3首まで)。石井氏の締め切りは5月24日(必着)、花尻氏の締め切りは7月5日(必着)です。作品は未投稿のものに限ります。二重投稿は遠慮ください。

紀州材ベストユーザー賞 京都と大阪 2社を表彰

紀州材の需要拡大に貢献した県外の企業を表彰する平成27年度「紀州材ベストユーザー賞」に京都と大阪の2社が選ばれ、県庁で表彰式が行われた。同賞は紀州材の良さを事業者、消費者に知ってもらおうと、平成21年に創設。

今回の大賞は、京都府宇治市の建設会社「三浦建設」。田辺市龍神村の「龍神守」と呼ばれるヒノキを平成21年から計約4500本利用した。木材の乾燥に3年以上かかるという自然乾燥材を取り入れている。

仁坂吉伸知事からスギで作られた賞状とヒノキの盾が贈られた代表取締役の三浦央嗣さん(47)は、「これからも紀州材の生産者と消費者の距離を近づける役割を果たしていきたい」と話していた。

また、特別賞には県産の「あかね材」を活用した大阪市中央区の建築事務所「無有建築工房」が選ばれた。



紀州材ベストユーザー賞に選ばれた三浦央嗣さん(中央)らと和歌山市

和歌山

地域ニュース

公開交通取締

【和歌山市内】10~12時(神前周辺)14~16時(西和佐周辺)北島周辺22~翌1時(出島周辺)【紀北】15~17時(岩出市、かつらぎ町)【紀中・紀南】10~12時(紀美野町)13時半~15時半(みなべ町)14~16時(日高川町)15~17時(新宮市)